

- 1 以下を日本語に翻訳しなさい。
(下線を引いた語は、翻訳せず、原語をそのまま記して結構です)

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(出典: Giselle Cotton and Magali Junet, *From Tapestry to Fiber Art: The Lausanne Biennials 1962-1995*, Foundation Toms Pauli, 2017, pp.16-17.)

- 2 以下を日本語に翻訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(出典: Michael Whiteway, *Shock of the old: Christopher Dresser's Design Revolution*, Cooper-Heiwick, National Design Museum, 2004, p.15)

3 以下を日本語に翻訳しなさい。

(下線を引いた語は、翻訳せず、原語をそのまま記して結構です)

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(出典: Miyeko Murase, *Bridge of Dreams: The Mary Griggs Burke Collection of Japanese Art*, The Metropolitan Museum of Art, 2000, p.178)

2019年度 京都市立芸術大学美術研究科
第二外国語（芸術学）フランス語入学試験

以下の1～2の仏文を和訳しなさい。（括弧内の出典については和訳不要）。

1)

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(P. Marmottan, *L'École Française de peinture : 1789-1830*, Paris, 2016, s.p., Chapitre premier.)

2)

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(A.M. du Bourg, *Rubens au grand siècle : Sa réception en France 1640-1715*, Rennes, 2004, p.109.)

平成三十一年度（二〇十九年度）

京都市立芸術大学大学院（修士課程） 美術研究科 入学試験問題

芸術学・第二外国語（古文書）

問題 1

別紙問題文①・②について。

漢字は新字体に、変体仮名は現行のひらがなに改めて全文を書きなさい（①は本文だけで良い）。

改行は原文の通りにすること。

問題 2

①を現代語訳しなさい。

※解答用紙は縦書きで使用すること。

問題の番号と問題文の番号を明記すること。

解答用紙は裏面も使用できる。足りない場合は追加を請求すること。

出典

① 『曾根崎心中』

② 『平治物語絵巻（六波羅行幸巻）』

①

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical passage. The text is written in a cursive style and includes several lines of text. Some words are underlined or have small marks above them, possibly indicating specific terms or emphasis. The text is oriented vertically on the page.

之又六波羅人行幸なる女侍れ染せりて
 侍らむらむらふらむら侍らむらむら
 中陣小舟軍をまきけり乃せりてまづ中宮に
 松よりまづ羽平門をりそめをり武士とて
 中坊に惟言御らむらむら女侍らむらむら也
 おほつふくたよふらむらまらぬひなれらむら
 ますふくゆなれ巻をりけり火をまらあま
 三をりまらむら女侍らむらむらまら
 三をりまらむら神園寶劔を侍らむらむら
 古と餘麻の成頼れとまらむらむらぬ内所
 をりまらむらむらむらむらむらむら
 三をりまらむらむらむらむらむらむら
 おりまらむらむらむらむらむらむら
 ちをりまらむらむらむらむらむらむら
 舞御むらむらむらむらむらむらむら
 忠會れまら

平成三十一年度(二〇一九年度)

京都市立芸術大学大学院美術研究科(修士課程) 入学試験問題

芸術学・第二外国語 中国語(含漢文)

問題1

別紙問題文①を、現代日本語に訳しなさい。(配点60点)

問題2

別紙問題文②の大意を、現代日本語で書きなさい。(配点40点)

※解答用紙の使用方向は、縦書きでも横書きでもよい。裏面も使用してよい。足りない場合は追加を請求すること。

出典

①高居翰著、宋偉航等訳『隔江山色 元代絵画』(三聯書店、二〇〇九年)一五四頁。

②明・唐志契『繪事微言』(画論叢刊本)。

この問題は著作権法上の関係により、
出典のみを記載しています。

山水性情

凡畫山水。最要得山水性情。得其性情。山便得環抱起伏之勢。如跳如坐。如俯仰。如掛脚。自然山性卽我性。山情卽我情。而落筆不生軟矣。水便得濤浪潏洄之勢。如綺如雲。如奔如怒。如鬼面。自然水性卽我性。水情卽我情。而落筆不板呆矣。或問山水何性情之有。不知山性卽止。而情態則面面生動。水性雖流。而情狀則浪浪具形。探討之久。自有妙過古人者。古人亦不過於真山真水上探討。若做驚人而只取舊本描畫。那得一筆似古人乎。豈獨山水。雖一草一木。亦莫不有性情。若含蕊舒葉。若披枝行幹。雖一花而或含笑。或大放。或背面。或將謝。或未謝。俱有生化之意。畫寫意者。正在此著精神。亦在未舉筆之先。預有天巧耳。不然。則畫家六則。按六則之則應爲法。首云氣韻生動。何所得氣韻耶。